

令和8年度小平市立花小金井小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

平均正答率は、全国・都平均を上回っている。正答数10～13問の層の割合は、45%以上と高い。問題形式では、選択式の正答率が高い一方、記述式の正答率が低い。また、記述式に関しては無答率も高い。

課題

記述式の正答率の低さから、「書くこと」に関して苦手意識が見られる。記述式の問題で何を問われているのかを理解することに困難を感じる児童が多い。また、自分の考えと根拠を結び付けて考えることに課題が見られる。問題文にある資料から回答に必要な要素を選択して記述したり、要点をつかんでまとめたりする力が弱い。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・書くことが苦手な児童に対しては、まず短い文を書く場を設定する。文章の「型」を提示し、書き方に慣れていく。繰り返し取り組む中で、2文、3文と少しずつ書く文章の量を増やしていく。
- ・友達と書いた文章を読み合い、自分の文章と比較する場を設定する。文章を書くことが楽しくなるような活動の場を設定し、前向きに取り組めるように指導を繰り返す。

【算数】

状況の分析

領域ごとの平均正答率は、全国・都を上回っている一方で、図形領域のみ平均正答率を下回っている。正答数に関しては16問中12問～16問の層の割合が40%以上となっている。観点別で見ると、知識・理解、思考・判断・表現のいずれの観点も正答率は全国・都を上回っている。

課題

図形領域の問題では、既習の学習事項を活用して問題に取り組む姿勢に課題が見られる。等しい辺や角、平行や垂直などの条件を整理して回答しようとする力が弱い。直方体や立方体の構成要素に関する知識は身に付いていても、根拠を明確にして判断したり説明したりするなど、理由を自分の考えと結びつけて考えることが難しい。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・習熟度別指導で、個々の定着について把握する。算数少人数担当や講師と児童の習熟に関する連携を密に取り、一人一人の学力の定着を図る。
- ・図形領域においては、図形の性質に着目したり、視覚的に捉えたりする場を設ける。
- ・図形領域に関わらず、答えの根拠となる理由を短文で書くなどの活動を繰り返し行うことで、「書く」ことへの苦手意識を克服していく。
- ・自分の考えを伝えることが苦手な児童には伝え方を確認しながら、自信につながるよう支援する。

【質問紙】

状況の分析

課題

生活習慣や学習に向かう意欲の項目では全体的に肯定的な回答をしている児童が多い。ICT を活用して学習に臨む姿勢が定着していることもアンケート結果から分析できる。また、自分で学び方を考えたり、よく分からない問題を見直したりする意欲が高い。一方、自己有用感や心理的安全性に関する質問では、否定的な回答をする児童も一定数いた。

自己有用感の低さから、自分が「人の役に立っている」という実感がもてなかったり、他者のために役立つとうとする気持ちをもって行動できなかったりする児童がいる。また、成功体験が少ないか、成功体験と感じていない場合が考えられる。また、学校生活において自分に自信をもてず、消極的な言動も見られる。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・基本的な生活習慣に関しては安定しているので、引き続き様子を見守っていき、本校の教育活動を充実させていく。
- ・学力に関しては、ある程度の定着が見られる。一方で各教科とも前向きに学習活動に向かう姿勢に課題が見られたので、課題設定や授業展開を工夫する。
- ・自己肯定感を高めるために、一人一人の児童の実態に合わせて、本人のできたことを認め、肯定する。
- ・学年全体にも集団として頑張っている場面で価値付けを行い、自信につながる声掛けを繰り返す。自分らしく過ごして大丈夫という安心感を生む雰囲気を学年全体で作っていく。